

御網葉圖説

附録

襖とまきろく板とありい又袴襦を袴衣とい別の物の
記しる物あり袴よてい多く入てまきろくねい

天明二十七年

伊勢平藏貞方書

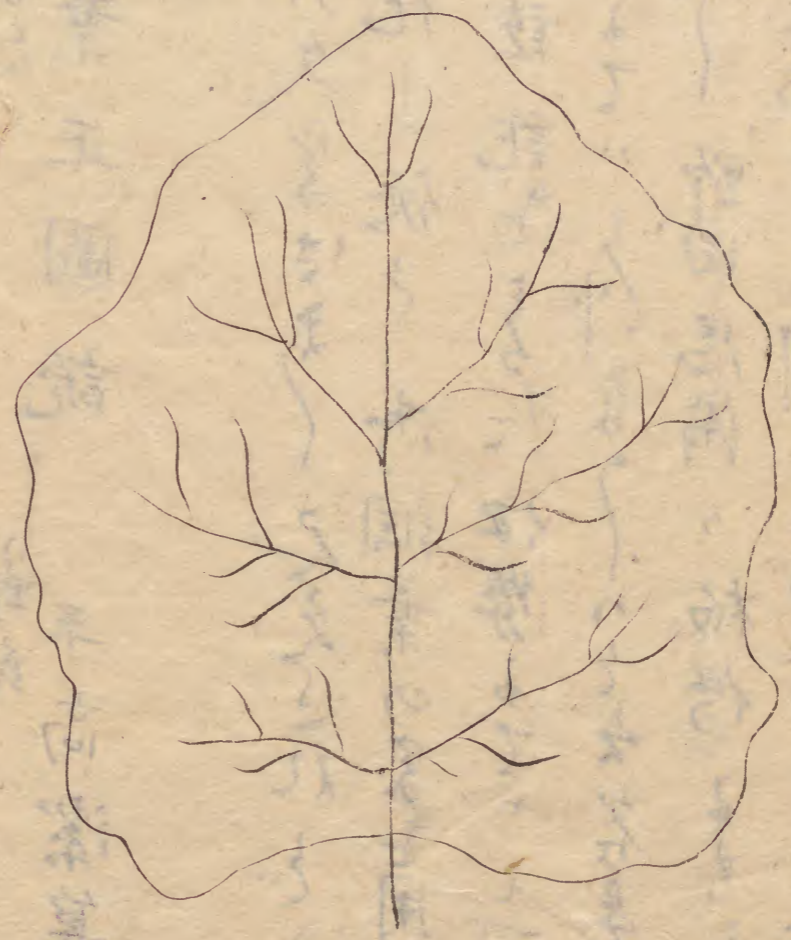
御細葉正圖説

御細葉正圖説

小野氏
平高潔纂

とるなりハ文字さまハ
予ハ日本紀子候々所細葉の字を用
再考該託をもちに伊勢まてり
ハ紀伊まてり
一たまづー野田忠満、柏傳まも
のりいをもて別子まづま
まてもまづー

押紙 貞丈云此葉ノ形ニテハ鴨長明カシノのりノ名をきく葉の形ハ
 代をとヨメルニハ合ハス夫木抄ニ度三寸長サニハガリト云ヘルモ
 合ハス一名長栢尾云夫木抄ニ見タリ此葉ノ圖長カラス



貞丈云此葉
 楸カシハニ似タリ

源満恭云御津根栢のこと志摩玉土貝鳥子生して
 神官子良の物忌等これを推て神饌に用る所あり
 其栢ハ秘して人子にせび其楸ハ其栢の辺よりつぎ
 て正員の祿匠と之をもりてあまらるる事あり
 故に古来より葉形を以て圖して傳ふ珊瑚葉杯
 にあまらるる事あり此栢ハ純伊弉子あるよりみえたり
 と古太卜に経ひるん土あるより栢流ト云台所り
 此栢のりこ十神主欲とゆへ是を秘してあまら
 して強て乞需てこれを忌むる事あり十神主曰此葉他玉
 子もあまらるるもわら神官より秘して人子にせむると
 のと成生れハ漢名何といふ樹とも志れがし志れ博
 賢の料本物子進する人あまらるる中経てあまらるる

伊弉諾やらのういひのたちをよめてつむまは神

まのり 亦枯云 衣笠内大臣

押紙貞丈云此哥衣笠内大臣哥ニアラズ本板 鴨長明か多し初文多し

イロハ 万葉ニあり伊弉諾系ニ神酒を撰く事あり

或人説云

長く一夜トアルモ誤ニ義解せを長く代し是の

風大能抄云うつこのいそい伊弉諾河内崇深川の岸

子せるう 貞丈云 大板い妻木抄の文

すま

野田忠肅云ともすま川のつりよあといぬれい

むりやあ久今い志屋とくの島と云知あある本のうまふ

やういひたものりて切居を付ひりよありてあ

比堅とぬみあわさるいりうととるやいひ傳

或問云うつなか 我邦の古託 子出る所を詳あり

漢名い 源恕字忠々本抄字に長

うい すまの人即ち醫者の原あり

葉の形を以これいす なち漢の榭なり

上 まふ先生云 榭もあ 漢

品 あり 可也云